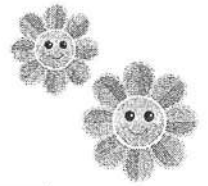


共生の社会を目指して

障がいの有無にかかわらず誰もが働ける社会づくり



平成23年版障害者白書によると、日本ではおよそ744万人が何らかの障がいをもって暮らしています。その中には、生まれた時から障がいのある人だけでなく、事故や病気・加齢などが原因で後天的に障がいを持つことになった人もいます。かつては障がいのある人への社会的な支援はあまりなく、厳しい差別や偏見にさらされ、社会から排除や隔離されるなど、障がいのある人の人権が省みられない時代もありました。障がいのある人の自立や社会参加が阻まれる要因の一つとして「障がい」についての理解や配慮不足があげられます。

厚生労働省では、障害者雇用対策として障がいのある人が障がいのない人と同様、その能力と適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることが出来るような社会の実現を目指し、障がいのある人の雇用対策を総合的に推進しています。障がい者本人に対しては、職業訓練や職業紹介、職場適応援助者等の職業リハビリテーションを実施し、それぞれの障がいに応じたきめ細やかな支援がなされるよう配慮しています。

愛媛労働局の平成23年11月25日付の発表によると常用56人以上の民間企業780社の障害者雇用率は、前年比0.05ポイント低下の1.64%で法定雇用率(1.8%)を下回っています。障害のある人の雇用に関しては、職場環境が大きな問題となっているようです。

厚生労働省は、障がい者の雇用の拡大と定着を図るため、特例子会社認定制度を定めることで、障がい者に配慮した仕事内容や環境の整備等を進めており、県内では5社が、障がい者の社会参加と自立の支援を目的として特例子会社認定を受けています。今回は、その中から株式会社フジ・ハートデリカに社内の様子や取り組みについてお話を伺いました。

● 会社の概要をお聞かせ下さい。



株式会社フジは、関係会社とともにフジカンパニーを形成し、地域の豊かなくらしづくりを創造することを目指しています。同グループ会社である(株)フジデリカ・クオリティはフジで販売する惣菜を通してお客様に食の楽しさ、美味しさ、大切さを提案する惣菜製造小売業として製造と販売が一体となったデリカ事業を運営しています。今回取り上げていただいた(株)フジ・ハートデリカは、障がい者がより安心して就労できる環境の整備と、仕事を通して社会とのつながりや働く喜びを感じていただくことを目的として、2011年7月1日に(株)フジデリカ・クオリティの100%出資子会社として設立しました。さらには、設立後5カ月を経た昨年12月には、「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に定める『特例子会社』の認定を受け今日に至っています。

- 「特例子会社認定」を受けようと考えられたのはどのような理由ですか。

障がいのある方の労働環境を整えるには、それに見合う作業場としての環境が必要と考えています。(株)フジ・ハートデリカは、野菜の下処理を行っている会社です。当該現場はグループ内の他部署の現場に比べて作業の種類が適度に絞られており、尚かつまとまった作業量があるため、障がい者にとって比較的就労(習熟)がしやすい環境であると言えます。さらに、限られたスペースで作業するため、就労管理面においてもより適しています。親会社である(株)フジデリカ・クオリティを含めた全体の事業所と比較してみても障がい者の働く環境としてより適していると判断しています。特例子会社として認められることによって、親会社である(株)フジデリカ・クオリティと法定雇用率の算定が合算されます。これは企業の社会貢献におけるより一層の一体感を高める効果があると思ひ認定を受けることにしました。

特例子会社制度

事業主である親会社が障害者の雇用に特別の配慮(仕事内容や環境の整備などを行う)をした子会社を設立し、厚生労働大臣の認可(親会社の管轄のハローワークに書類提出)を受け、子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているものとみなし、実雇用率を計算できます。

子会社の要件としては、雇用される障害者が5人以上で全従業員に占める割合が20%であり、雇用される障害者等に占める重度身体障害者及び知的障害者の割合が30%以上である事が必要です。

特例子会社によるメリット

■ 事業主にとってのメリット

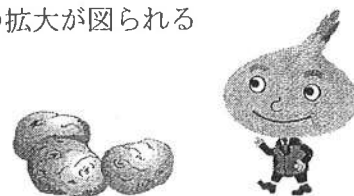
- ◆ 障害者雇用率の向上・達成により、社会的責任を履行できる
- ◆ 障害者の特性に配慮した仕事の確保・職場環境の整備により、障害者の能力が十分に引き出せる
- ◆ 障害者受け入れの為の設備投資が集中できる

■ 障害者のメリット

- ◆ 雇用機会の拡大が図られる
- ◆ 障害者に配慮された職場環境の中で最大限に能力を発揮する機会の拡大が図られる

<「特例子会社」制度の概要 厚生労働省 HP より>

www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/shougaiisha02/pdf/07.pdf



- どのような障がいのある方が働かれているのでしょうか。また障がいのある方はどのような仕事をされているのですか。

現在(2012年2月)全従業員30名のうち知的障がい者13名の方に働いてもらっています。知的障がいといってもその特性は様々といえます。ひとつの作業を黙々とこなす方もいれば、複数の作業をこなせる方もいます。また、話好きな人もいれば、寡黙な人もいます。共通した部分としては、ほとんどの方が欠勤や遅刻をせず一所懸命に働いてくれています。

仕事の内容は、(株)フジデリカ・クオリティで製造販売するサラダや煮物の原材料となる野菜、果物等の一次加工（下処理）をしています。代表的なものとしてポテトサラダに使う「ジャガイモの芽とり」作業があります。芋の皮を機械で剥き、その後手作業で芽を取る作業です。初めの頃は慣れない作業で、スピードも遅いのですが、2～3カ月もしないうちに既存社員と見分けがつかないくらいの作業スピードになる方もいます。多い日は約1.5トン～2.0トンくらい処理する時もありますが、その時はもちろん残業もみんなと同じようにしてもらっています。又、手作業に向いてない方でも機械を導入し工夫することで十分仕事がこなせている部分もあります。

◆ 健常者と障がい者の方の仕事内容は違っているのでしょうか。



基本的には同じ作業をしてもらいますが、それぞれの適性に合わせて臨機応変に対応しています。自分で考えて作業が出来る人、少し声を掛けてもらいながら作業を進めていく人と半々くらいです。

◆ 仕事をする上で工夫、配慮された点はありますか。

作業の面では、やはり機械導入の効果が大きいといえます。玉葱の皮剥き機、野菜の縦割機などは、今回の採用に併せて、急遽導入しましたが、操作に慣れれば、各人が許容範囲内あるいは期待以上の加工生産性を発揮してくれています。

施設の面では、老朽化の目立つ個所に、解り易く表示をして、労災などの事故がないよう配慮をしています。また、体調管理面では、毎朝の朝礼の時に必ず全員に確認するようにしています。

● 職場内での、意思疎通やコミュニケーションの取り方で工夫されている事は、何かありますか。

今回、(株)フジ・ハートデリカを設立するに当たり、積極的に取り組まれている企業へ出向き貴重な体験をさせていただきました。コミュニケーションの取り方についてそこで学んだことは、「相手が何を考えているかをよく知る事」「うまく表現できない相手の言葉を押し量るように心掛けること」が重要だということです。その為、現場においては一緒に昼食をとったりしながら自然に話ができるように心がけています。

又、既存社員の多くの方たちは障がい者と親子ほどの年齢差があり、そのため、親が子どもの面倒をみるように接してくれています。

さらに、個別の問題で困ったときには支援者（学校の先生、施設の先生、保護者等）の方々のお力を借りながら対応したり、経験豊富な他企業の方の対処法を参考にさせていただいています。

◆ 職場での交流会など、行われた事はありますか。

新入社員を迎えた時や忘年会等節目ごとには飲み会をしています。できれば2ヶ月に一回くらいは、イベントを計画したいと思っています。カラオケはみなさんのお気に入りです。みんなが心待ちにしてくれています。



● 今後、会社をどのように展開していきたいとお考えですか。

障がい者の方々と接してみて、その可能性に正直驚いています。時間は多少かかるかもしれませんが、今よりも難易度の高い作業にもチャレンジしていき、より生産性を高めていきたいと考えています。生産効率が上がれば雇用の維持、さらには雇用の拡大ができると考えています。

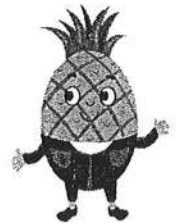
また、現行施設では、今後の作業量を考えると手狭になりつつありますし、設備面でも十分とは言えない個所もあります。できれば、将来に向けて、もっと改善された施設を整え、より充実した労働環境を整えたいと思っています。そのためには、自助努力により今よりも生産性を高めてゆきたいと思っていますが、福祉行政を含めた社会的な支援なくしては難しい面もありますので、今後とも色々な方々と協力していければと思っています。

*** Mさん (20代 女性) ***

● どのような仕事を受け持たれていますか。その仕事でご苦労されている点などありましたら教えてください。

(株) フジ・ハートデリカに入って 5 ヶ月になり、朝が早いですがだいぶ慣れました。ジャガイモの芽とりを担当しています。スプーンの先を芽とり用にカットしたのを使っています。平日はみんなで協力して約 400 キロ、特売日は約 1.5 トン～2.0 トンほど芽とりをします。

平日は 7 時から 14 時まで働きますが、忙しい時は残業をすることもあります。家で母の台所の手伝いをしていたので芽とり作業は大丈夫です。今、自分から希望してパイナップルの加工もできるようになりたいと思っています。



● 就職された事で意識に変化などありましたか。

(株) フジ・ハートデリカに入る前は施設で作業をしていました。今は施設を出てグループホームで生活しています。休みの日に友達と会って DVD 鑑賞や話をするのが楽しみです。給料日が楽しみです。母がとても喜んでくれるのでまた仕事を頑張ろうと思います。

編集後記

障がいの種類は様々で、外見ではわからない障がいもあります。障がいのある方はいろいろな不便を感じている事を改めて知りました。私達自身「障がい」について誤解や偏見をなくし理解することが大切だと思います。障がいのある方も可能性がたくさんあります。社会の一員として自立した生活を送るには職業的な自立が重要だと思います。就労機会が増え、働ける場所そして仲間がいることで安心感が生まれます。これらによって自信が付き、いきいきと毎日が送れるのですね。(S山・Y山)



愛媛県委託事業：(平成 23 年度 労働者の声発信事業)

発行：社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町 1 2 5 番地 愛媛県労福協会館 3F

TEL 089-946-2296 FAX 089-947-5616

Email e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp HP <http://ehime.rofuku.net/>

